

学校教育目標	「人間力を高める因島南小教育」～静と動の融合が生み出す教育活動～
--------	----------------------------------

a ミッション	組織＝学力＝信頼 ・組織：組織的な取組の徹底 ・学力：県平均レベルの基礎学力定着 ・信頼：信頼される教育活動の推進（3年目の深化）	a ビジョン	・部主事、主任を機能化し、組織的な取組を充実させる。 ・算数科を中心とした校内研修を充実させ、児童の基礎学力の向上を図る。 ・報告や連絡を徹底させ、信頼される教育活動を行う。
---------	--	--------	---

評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		1月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値	g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	学力の向上	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上 ○「目指せ！南の五つ星」の指導を徹底する。 ・返事 ・目を見て聞く ・伝わる声で話す ・学習準備 ・濃く丁寧な字で書く	○算数的な表現と説明を関連づけた授業作りを行う。 ○児童アンケートで「南の五つ星」を実行することができた児童の割合を80%以上、また、教師評価の割合を80%以上。	80%	72.3%		90.3%	B	3	○算数科単元末テスト結果 【知識理解】73.4% 【思考判断】71.3% 児童の基礎・基本の学力と思考力・判断力・表現力の向上のため、授業改善や学力補充「学びタイム・黙々タイム」に取り組んでいる。児童が自分で考えたり、考えたことをよりよく説明したりするためにも、基礎・基本の学力が必要である。授業改善や学力補充の内容改善が必要である。 ○「目指せ！南の五つ星」について児童・教師アンケートの肯定的評価は、以下の通りである。 【児童】83.8% 【教師】75.4% 児童と教師の評価に差があるのは、目指す姿のイメージに差があるためと考えられる。	3	イ	ロ	ハ	・少しずつだが、結果が良くなっている。今後も粘り強く指導を続けてもらいたい。 ・新しい学びのスタイル（学びの変革）に向かうために、基礎・基本の定着・充実は大変重要である。今後も継続して地道な取り組みをお願いしたい。 ・昨年もそうであったが、児童と教師の評価において、差がある。そこを埋めていく努力が必要である。	○思考力・判断力・表現力の向上を目指し、以下の2点に取り組む。 ・単元末テストや広島県「基礎・基本」定着状況調査や全国学力・学習状況調査などから課題を分析・整理する。 ・分析した課題から、「学びタイム・もくもくタイム」の内容を改善、算数科における学習の系統性の整理、思考力・判断力・表現力を高めることを重点においた授業改善をする。 ○基本的な学習規律については、全学級とも概ね定着してきている。全児童が、五つ星に肯定的評価ができるよう、目指す姿を具体的に示す。
				80%	79.6%		99.5%									
豊かな心の育成	心力の向上	学校や生活のルールを理解し、自分で考えて行動できる児童の育成（「静と動」を意識する児童の育成） ○保健体育部と協働して、児童の主体的、自治的活動を組織しながら無言行動（無言掃除）を学校の伝統に引き上げる。	○児童アンケートで「自分から進んであいさつをしている」と判断する児童の割合を85%以上 ○児童アンケートで①「完全に無言掃除を行っている」②「『校舎内は静』を意識して、静かに掃除場所についている」③「自分の掃除を振り返り、明日の目標を設定している」と考える児童の割合を85%以上（3項目平均85%以上）	85%	78.8%		93%	B	3	○「自己表現が苦手な児童が多い」ことは本校が開校して以来抱えている大きな課題の一つである。まずは、あいさつを通して、自己を表出、表現させることをねらいとして、「朝の100点」の取組、教職員輪番によるあいさつ運動・登校指導に取り組んできた。結果として、「あいさつを自分から大きな声で相手に伝えている」の児童アンケート肯定的評価は、78.8%と目標値を下回った。一学期は児童会と連携しながらの自治活動を仕組みことができなかった。来学期以降の克服課題とする。 ○校長が掲げる学校教育の目標の具現化に向け、「静と動」の減り張りを付ける「切りかえゾーン」を設定し児童の意識化を図ったり、掲示物を作成し「見える化」を図ったりしながら取り組んできた。無言掃除の取組では「静と動」の取組とリンクさせながら、そうじの予鈴が鳴ったら、教職員が児童玄関に集合し、切りかえゾーンから完全無言ができていないか検証し、できていない児童には、全職員で指導する体制を確立した。また、全職員で巡回指導を実施し、実態把握を進めながら、課題を明確化した。明確になった課題を克服するために、一週間のスパンで低・中・高各ブロックの重点指導目標を設定し完全定着に向けて取り組んだ。結果として、児童アンケート肯定的評価は、「静と動」については、75.1%、「無言行動・無言掃除」については83.3%であった。	3	イ	ロ	ハ	・様々な課題に対して、先生方が粘り強く取り組んでいることがよく分かった。必ず良い方向に向かうと信じて、今後もあきらめないう指導を継続してほしい。 ・あいさつができる児童が増えてきているのは事実。これは、先生方の取り組みが成功しているからである。自信をもって児童への指導を続けてほしい。 ・自己表現が苦手な児童が増えているのは事実である。だからこそ、しっかり表現できるように指導してもらいたい。 ・静と動の切り替えをしっかりと欲しい。高学年がお手本を見せると良い。	○児童会と連携し全校児童対象のあいさつ運動等を企画、運営させる。その際に実態を見せることを大切にすることで、課題を持たせる。発見した課題に対して、どのように解決するのか考えさせ（話し合い活動の充実）それを実行させるというシステムを確立する。 ○児童会と連携し、学校生活における問題点に気付かせ、それを話し合い活動を通して、解決させるシステムの一層の確立をめざし、それを充実させる。 ○目指すゴールを映像を通して、児童と共有する。 ○児童の実践における意欲の高揚、継続化を図るための評価を工夫する。 ○全児童と課題（取組の存在意義を含む）を共有し、児童との取組の方法を共通理解する。 ○「無言掃除」の具体化に向けた重点指導項目を一週間のスパンで設定しPDCAサイクルに則った取組を継続する。
				80%	75%		94%									
健やかな体の育成	体力の向上	自分の健康・体力について、自分で考えて行動できる児童の育成 ○給食後の「歯みがき」指導の強化週間に学期に1週間設ける。 ○体育科の授業の中で、南っ子サーキットの実践を充実させる。	○強化週間において、歯みがき実施4日以上児童80%以上 ○毎月、体育の授業での南っ子サーキットの実施率80%	80%	75%		94%	B	2	1	イ	ロ	ハ	・バス通学の児童が多いため、運動不足になっているのではないかと感じた。 ・体育の授業を充実させ、児童の運動不足を解消したり、児童の運動能力の向上を図ったりしてほしい。 ・継続していくと同時に、楽しく運動ができるように配慮してほしい。	○まず、全児童と教職員が歯ブラシを持ってくる。次に歯みがきのブラッシングについてより丁寧に学級指導を行っていく。また、夏休み中に虫歯の治療が十分にできていない児童については、9月の参観日・懇談会を通じて再度呼びかけを行っていく。 ○サーキットの実施だけでなく、休憩時間や体育の時間を使って体を動かすことが好きになるような取り組みを行っていく。そのための視覚教材を準備して、よりよい動きや運動のコツについて話し合ったり、認め合ったりする場の設定を設けることが大切になってくる。	
				80%	76%		95%									B
信頼される学校	信頼度向上	保護者・地域とのつながりと信頼を深める。 ○学校で起こった「輝いたこと」の積極的な発信 ・校長だより、学校だより、学級だより、HPによる情報発信 ○不祥事防止に向けた服務研修の実施 ・通知文による指導の徹底（毎回） ・服務規律研修の定例化	○校長だより・学校だより・HP更新月1回 ○服務研修月1回の実施	100%	100%		100%	A	3	3	イ	ロ	ハ	・忙しく時間がない中、HPの更新等、学校の情報を積極的に発信してもらっている。学校と地域がつながるにはまず「知る」ことが大切である。今後も定期的な情報発信をお願いしたい。 ・行事に対して、お便りがもう少し早めに出ると良い。 ・先生方の研修が充実していることを聞いて安心している。	○校長だより・学校だより・学級だより・HP等を通しての情報発信をさらに積極的に行う。 ・毎月10日をお便りの発行日に定め、定期的に学校の様子を発信する。そのために、日常的に児童が「輝く」場面を写真等で残すようにする。 ・ICT支援員の協力を得て、月に1回以上はHPの更新を行う。 ○「不祥事ゼロ」を継続させる。 ・今後も、年間を通じて定期的に服務規律研修を行い、不祥事防止に向け取り組む。 ・教職員間のコミュニケーションを積極的に図り、風通しのよい職場環境づくりを行う。	
				100%	100%		100%									A

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 B：80≦（ほぼ達成）＜100
 C：60≦（もう少し）＜80
 D：（できていない）＜60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。